

稲垣 さくら

illustration

ほり恵利織



アフナイ恋も
秘書のお仕事

アブナイ恋も秘書のお仕事

《立読み版》

稲垣 さくら

イラスト
ほり 恵利織

キングサイズのベッドに仰向けに押し倒され、Tシャツを首元まで捲り上げられる。両腕は手首を革のベルトで巻かれ思うように動かすことができなかつた。

下着まで全てを剥ぎ取られた下半身は、急激に摂取した強いアルコールと、先ほど手で一度イカされた所為で、全く力が入らない。

^{へそ}臍の上辺りまで、自らが放った白い蜜で汚し、胸は、はあはあと浅い呼吸を繰り返す。

そんな直^{なお}の両脚を大きく開かせると、智秋^{ちあき}はその間に膝立ちになった。バスローブを脱ぎ捨てた智秋の肉体は美しく鍛えられている。

「直……」

初めて、名前で呼ばれて、全身が震えた。

「直の身体のいろんな場所を、もつとちゃんと見たい」

甘い声で囁かれると、それだけでまた、身体の中心がいやらしく息づいてしまう。

男同士で、こんなことをするなんて今まで考えたことがなかつた。

それに智秋と、今日初めて会ったばかりだ。

頭はまだ理解できずにいるのに、スイッチが入ってしまったかのように、身体は反応していく。

「乳首、立ってる。さっきの、気持ちいいのがまだ残ってるんだ？」

智秋は、小さく笑うと、右の乳首に舌を這わせた。

「乳輪の大きさも色もいいね。綺麗だ」

苛めるように舌先で何度か突き、唇に含んで吸い上げたかと思うと、チュツといやらしい濡れた音を立てて乳首を離す。

そんな風に、右ばかりを執拗に弄られ、自然と左胸の乳首が疼いた。

「…っ…や、っ…右ばかり…や…だ…」

思わずそんなことを口走った自分が信じられなくて、直は全身を赤く染めた。

「随分、素直になったね。大丈夫。左も、してあげるよ」

智秋は左右の胸を揉みしだくように、両手を動かした。

「…あ…っ…」

ふつんと熟した果実のような乳首を指の間に挟んで擦り上げられる。

ときどき、爪を立てられるのが、痛くて…でも、気持ちがいい。

こんな感覚は初めてだった。胸がこんなに気持ちいいなんて、初めて知った。

「…っ…ん、っ……」

直の中心が、更にも上を向いた。

敏感な場所は、身体の中で繋がっているのかもしれない。

「いやらしいな。まだちよつとしか触ってないのに、また出そう？」

智秋は苦笑すると、乳首から手を離れた。

「…や…っ……」

「でも、もうちよつと、駄目だよ」

智秋の長い指は、下腹部へと降りていく。そして、さつき、直が放ったベタベタの精液を舐めとるように、舌もその後を追いかけていった。

「臍は、縦長なんだね。綺麗な形。それに、ちゃんと手入れしてる？」

「そんなの、しない…です……」

「へえ…じゃあ、何もしなくても、こんなに綺麗なんだ」

膺の中心を舐められ、唾液で濡れたところに、ふーっと息を吹きかけられる。くすぐったさにも似た感覚に直は身悶えた。

「や、めっ……!」

「これ、感じるんだ？」

身体を振よつて嫌がる直がおもしろいらしく、智秋は意地悪に、何度もそれを繰り返す。触られてもいない直の果実がいやらしく濡れていく。

早く、また…欲望を解放してしまいたい。

「直の身体、いやらしいところがいっぱいだけど、そろそろ、駄目みたいだね」

それに気付いたのか、智秋は顔を上げると、直をじっと見つめながら、更に大きく足を開かせた。「直の、いちばんエッチな場所が、僕に舐めて欲しいって、言ってる」

「そんなこと!」

頭を上げると、自分の欲望がいやらしく反り返っているのが目に入って、直は思わず顔を背けた。

「言ってるよね。舐めてって。こんなに濡れて、おいしいから舐めて、って」

そんな智秋の言葉だけで、直は、また濡れていく。

「…や…っ…」

「触っていないのに、こんなになるなんて、本当に、いやらしいな」

智秋の息が直のものに、かかったかと思うと、唇が触れた。

「舐めてあげるよ」

本気で言っているのだろうか。

本気だとしたら、智秋はただの変態だ。

「へん…タイ…っ…」

そんな直の呟きを咎めるように、智秋は直の先端に歯を立てた。

「…っ…！！」

甘い痺れを伴った痛みが、全身を抜けた。智秋は慣れた様子で、直のものに舌を這わせていく。

舌は指よりも繊細うごめに蠢いた。

今まで付き合った女の子たちには、されたことがない初めての感覚に、腰がびくびく震える。

※続きは製品版でお楽しみ下さい。

アブナイ恋も秘書のお仕事

《立読み版》

発行日 2011年10月28日

著者名 稲垣 さくら

イラスト ほり 恵利織

発行所 【MILK-CROWN】

株式会社水晶院

<http://www.milk-crown.net/>

(C) Sakura Inagaki 2011

※本著作物の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。